音韻假字用例 附說 上

W
S
1001

國立國會圖書館藏書

保科文庫

2057

附説上

目録

撥ふ韻乃假字の事 二丁オ
同んむ此假字の事 五丁ウ
散位三位音便の事 十一オ
耶行和行所生の事 十二ウ
五音相通の事 十三ウ
愛アく共ふ正音の事 十四オ
邑イオ共ふ正音の事 十四オ
あいゑに外も略く例の事 十四ウ

烏字古音れ今音を乃事 十五オ

野ヤ工共ニ正音の事 十六オ

喉音三行乃假字を韻字ニ據て差別あは事 十七ウ

韻鏡第十一轉開合の事 二十ウ

御國乃漢音吳音の事 二十一ウ

漢音吳音開合異なるといふ事 二十二オ

阿行耶行和行いゆるうえを同字にあらざは事 二十三ウ

三會圖を贅物なれ事 二十四ウ

問字原音ムンなるといふ事 二十六オ

不雅なは音を直音ニ轉じて云云といふ事 二十七ウ

拗音直音の事 二十八ウ
香字コウ乃音あふ事 二十九オ
茴煨ウ井乃音の事 三十オ
水字シ乃音の事 三十一ウ
スワツワ等乃音の事 三十二ウ
ヌ井ム井と云音そあふはじさ事 三十三オ
源字グヱン乃假字の事 三十五オ
鶴字クワク乃音の事 三十六オ
同傍などまそも云云といふ事 三十七ウ

附說下

目録

雄イユウの假字の事　一オ
央ヤウの音を誤ふる事　二オ
影永の音の事　三オ
尹字井ーンイーン兩音の事　三ウ
聿字井ーツイーツ兩音の事　六オ
いーやいーよの音の事　六ウ
繪ヱ音訓同語の事　八オ
烏帽子の假字の事　八ウ

えうゑうの音の事 十ウ
えいゑいの音の事 十一オ
越ヲツヲチの事 十三オ
杲カホの假字の事 十四ウ
豪宵の二轉のゝ和行の于ハ韻の事 十五オ
集シヲの假字の事 十五ウ
狎字アフの音なき事 十六ウ
乙字オツオチの音の事 十七オ
入声邑匝(イヒサヒ)等ヒ韻平上去ミ韻の事 十七ウ
高字コの假字の事 十八オ 十九ウ

保字ホの假字の事　二十オ
毛字モの假字の事　二十オ
薑姜等漢音呉音の事　二十ウ
匡王方等字の反切の事　二十一オ
同開合の事　二十二オ
第三十四合轉三等四等開音といふ誤ある事　二十七オ
崇字スウソウの音の事　二十八オ
章昌等字呉音シヨウの事　二十八ウ
相象等字シヤウサウの音れ事　二十八ウ
襄讓等字ニヤウの音の事　二十九オ

頭字チユウ乃音の事 二十九ウ
毛耄等字マウの音の事 三十オ
封峯等字ホウの音の事 三十オ
謬字ベウの音の事 三十ウ
ヂーヤヂーユの音の文字ある事 三十一オ
遺字ユ井の音の事 三十一オ
鎚子ツイシ乃假字の事 三十一ウ
常よそキ音に呼ぶ字をク井と假字附たる事 三十二ウ
漢呉音圖開合並音註の事 三十四ウ
第一轉風ヒヨウ等の事 三十五オ

第二轉恭キヨウ等の事　三十五ウ
第十二轉古音開今音合の事　三十六オ
第三十一轉吳次音上才緯の事　四十ウ
第三十二轉匡狂キヤウ等の事　四十ウ
第三十四轉兄頃キヤウ等の事　四十一オ
第三十九轉吳音上ア緯の事　四十二ウ
字音呼法の事　四十三オ

音韻假字用例附説上

白井寛蔭　稿

安永の始に鈴屋翁字音假字用格を著はされたる其心ばきいひしらばめでたく古の書ども我徴として記されるをば今そ大かる字音の假字を書かむとすれ不そかならば規矩とすべきことなりぬしかれども其多かは中にそ猶考へそしされるはもあるひは思ひ乞がゑられたるもさそいへどすくなくしば古はが中にも殊に甚(イミ)じ紀僻(ヒガ)ことなれそ撥(ハヌ)る韻の假字ども我すべきむとの〻定めしれるはなり猶ほ他にそ誤れる

とおぼし紀をなる。今彼書（字音假字用格）を抜いでゝ。清ばらこの
小さと見しむとは。又故義門法師が此書乃餘論を書り
れたる中にも。いかにぞやかるぶるの事ゝぬしなきにし
もあらねば。是そゝ聊抜いぞゝ辨へむとは。抑價ある紀寶
乃金玉の中より見たおく砂石を見出せるとて。しる見顔
に論しそむそのゝそゝいそ紀しわざなれど。大人乃書
ねられる事。玉勝間を見るるに。そし考へ誤れ辟こと
あらバふるゝび改えたゞしてよと見る。太田翁の漢呉
音徴にも。略陳所由以竢来哲是正焉と見えたれそ。今し
もかく論ふ我翁たちの天かゝれらむ乃世にさのゝ

ハにくゝ語をしとてなむ。さて撥(ヌ)は韻の假字（関政方が傭字例に。論ら）
ひたれど猶盡さぬ。に。ヌ二ム三ぬ四字あはことなしいふべし。韻鏡十
七轉真韻より卍二十四轉桓韻はぐ。八轉乃撥る韻ぬ假字
そ。漢音ヌ吳音ニなり。又其轉乃入声の韻そ。漢音ツ吳音
チなり。これ平上去共に。其韻舌内乃ヌニなれバ。入声ぬ
韻も亦。舌内乃ツチなり。三十八轉侵韻より卍四十一轉几
韻はで。四轉ぬ撥る韻乃假字そ。漢音ム吳音ミなり。又其
轉乃入声乃韻そ。漢音フ吳音ヒなり。是又平上去共に。唇
内ぬム三なれバ。入声乃韻も亦。唇内乃フヒなはにて。其
例の嚴密(オゴソカ)なる事ぬ了解(サトル)ぬし。猶其徴(アカシ)とせむその。萬葉集

巻ノ三十五オに。珠藻苅敏馬乎過。敏十七轉同巻十六ウ奥邊波邊廿三、同巻
廿一オ燒津邊。同巻三十二ウ葦邊波。巻ノ六十五ウ岸乃黄土粉粉二十、巻ノ九十五オ
雖見不飽君、君同巻ノ十四十四オ所思君。巻ノ十一十五オ吾念名君。巻ノ十
二三十五オ妻毛不在君。同巻三十六ウ島楢名君。同巻三十一オ今夕彈彈廿三、同
巻三十七オ檝音湯鞍干、干同巻ノ十一三十九オ尓故余漢漢同、○巻ノ二十二尓古餘可尓之母
と假字書なほがあふをも見ほ通し。巻ノ四四十オ神祇毛知寒、寒同巻ノ十三十六オ散釣
君名曰者、散同巻ノ十六十四オ散追良布君尓依而曽同巻に。左耳通良布君之
言等、と假字書なほもあり。巻ノ十三九丁オ難可將嗟、難同同巻十三オ吾哉難二加
なしと見ゆ。又古今集物名に紫苑を。ぬ也をへていざふは
さとの花見むとこし。を。ぷほひぞうりろひにけれ。苑廿二、

同木丹（ジタニ）と散ぬれば後そあくだかなれものを。丹（タニ）廿三、同牽（ケニ）
午子（ゴシ）を打けるにこしとや花乃色を見む。牽（ケニ）同拾遺集に。
忘れにし人乃はらふを戀しきの。むげにこじとハ思ふ
物ゝ同集ゝ蘭（ラニ）を秋乃野に花てふ花を折けるバ。わび
しらぬこそ虫も鳴なれ。蘭（ラニ）同○以上従十七轉至廿四轉ヌ二乃韻の徴などあれ
を見て。以上八轉ハ撥は韻乃假字そ。漢音ヌ吳音二なれ
ことゝ我ゆゑ疑ハざれ。はてはゝ萬葉集巻十二十丁に。亂（ミタレコム）今
可聞（カモ）今（コム）卅八轉巻十三廿七今還金（イマカヘリコム）、金同巻五廿六許布夜須疑南（ヤスギナム）南卅
九、同巻廿八伊能知周疑南（イノチスギナム）一云和何余須疑奈牟と假字書ふながあるをも見るべし。同巻廿九
阿我和加禮南（アガワカレナム）一云相別南（アヒナム）巻九十六今夜者寐南（コヒハヌナム）巻十四十五黄始南（ニホヒソメナム）巻

十五六丁ウ印南都麻。和名抄に播磨郡名印南伊奈美とあり。巻十一十七ウ吾者戀南。今の本ナムとあれどナミと訓ぶし。巻六四十オ宮仕兼、兼同巻九十五ウ遊兼。巻十一四丁オ事告兼。巻七九丁オ古尓有險人母如吾等架。弥和乃檜原尓。挿頭扐兼。險兼同、同巻廿六ウ着點等鴨、點同巻十一一丁オ人見點鴨。巻四五十ウ欝瞻乃、瞻同同巻五十一ウ獨鴨念、念同同巻廿六オ神思知三三ハ四十、○今の本。知三とあれどわろし。巻六一丁オ如是二二知三。今の本。如是二二知三とあれどわろし。巻五三十八ウ可久夜歎敢、敢同巻六十丁ウ見欲賀藍、藍同巻九九丁オ今日散濫。濫同、同巻十四オ極尓監鴨、監同巻十三四丁オ甘南備山尓、甘同又古今集物名に龍膽花を我やどの花ぬるしだくとりうたむ。野。ななれば。やまゝにしも来れ。膽同拾遺集に川かゝ

小今よりうたむ網代小そ（以上従三十八轉至四十一轉ムミの韻の徴）などみそた
はふて三十八轉以下四轉乃撥ふ韻ハ假字そ漢音ム呉
音ミなれ事を知はゞし此餘記紀地名人名等其徴許多
あるて大きなそ太田翁乃漢呉音徴に擧られたまゝ彼
書にゆゞみくさゝみそ畧ゝみ猶其證とすべきそのハ
韻鏡第一轉二轉三轉三十一轉三十二轉四十二轉四十
三轉乃ウノ韻なはものと三十三轉よりみ三十六轉はでゝ乃
漢音イノ韻呉音ウノ韻なれ轉そ其入声凡てクトキト乃韻なみ
これ入声乃韻喉内声（三内アカヤ喉によは）なれバ平上去乃韻も喉
内なみ故（カレ）入声の韻を推（シ）て平上去乃韻を知ふの證とす

べし。此格を以て推すに。十七轉以下乃八轉そ。其入声舌
内声ツトチト乃韻なれバ。平上去乃韻も亦。舌内ヌトニト乃韻な
れ事明らけく。三十八轉以下の四轉そ。其入声唇内声フト
ヒト乃韻なれバ。平上去乃韻も亦。唇内ムトミト乃韻なれ事炳イナ
じろれものをや。猶いなぐ悉曇三密鈔に。[illegible]アンアク二字ハ各通ス
三内ニ所謂ル三内ト者。盎アウノ音ハ喉内安アンノ音ハ舌内。唵アムノ音ハ唇内。以上文と見
そなふ。三内そ韻に就ていふまて。盎アウハ韻鏡三十一開喉韻
轉に收メて。ウ乃韻なり。安アンハ二十三開舌韻轉に收メて漢又呉ニ
乃韻なり。唵アムハ三十九開唇韻轉に收メて。ム乃韻なり。安アンと注せば
して。アンと注せしよしハ。音圖ノ凡例三丁にいつるを見ふべし。是亦又ノ韻ト。ムノ韻を混同せるに

き徴といふ事し。猶朝鮮諺文字母。初声終声通八字乃中
ま。ㄴ尼隠□眉音と擧たる。ㄴそ初声二終声ヌとなる。□そ初
声ビミの二声。終声ムとよめと注したるまそ。字會類合
ともに朝鮮の字書なり等ま。辰진と注したるそ大ㅣ森合と注したる
そ人ㅣ岸한と注したるそ古ㅏ巖함と注したるそ古ㅏ
□ムまそ。その辰字ハ韻鏡十七轉ま收てシヌの音。森字ハ
三十八轉ま收てシムの音。岸字ハ二十三轉ま收てガヌ
の音。巖字ハ四十轉ま收てガムの音なり。抑字會類合の
巻中。數千字諺文を施せはま。此格巖密にして。ちらま混
同せばちるを。翁ハこれらの書式もなほざりまゑまぐ

されしの或ハいまゞ見えしれざりしう其著述の書あまかなる中にも諺文を引證せられたるものハ見ゆるべし猶用格の巻末に韻ノむ之假字と挙たる條を此処に引上げ且義門法師の餘論をも書列ねてさとりるべし

撥ル韻ノ假字ノコト或説ニ開口音ノ字ニハんヲ書キ合口音ノ字ニハむヲ書ベシト云ヘルハ甚シキ妄説ナリ其差別アルベキ由ナシ韻ノ假字ニハむん通用スベシ以上用格五十四左義門云撥ル韻ノ假字開轉ノニハん合轉ノニハむト云説ハ余ガ肯ンゼザル處也今此書ニ通用スベシト云ヘルモ亦肯ンジガタシ此んむ皇國言ヲ記サンニハ原ヨリ其差別アルベカラズト云ヘ𪜈字音ニハ必別チアルベ

シ。其別ハな行ニ轉ズル字ト。ま行ニ轉ズル字トヲ以テ分ツベシト云ル説亦ルベシ。又余此説ニ準シテ按スルニ。ら行ニ轉ズル字モ亦んニシテ必むニ非ズ。本居氏ノ地名字音轉用例ニ擧タル處ノ諸字ニツイテ考ベク。又吾ガ奈万之奈ト名ツケテ一書著ハセルヲ見ルベシ。○男信上毛郷名奈万之奈。伊參上毛郷名和名鈔。伊佐万トアリ。夷濃上総郷名伊志美ト注ス。古事記ニハ伊自牟トアリ。書紀ニハ伊甚トアリ。又和名鈔。安曇信濃郡名阿都三。志深播磨郷名之之美ト書キ。記ニハ志自牟。紀ニハ縮見コレラ。ま行ニ轉セル字ナリ。カクテ是等ノ字ヲむノ假字トシテんトハセズ。

尓レバんむノ字音差別アルベキユト必セリ其んニシ
テむニアラザル字ハ信因引雲難遠散近等ノ字ナリ是
等ハな行ニ轉スル例ハアリテま行ニ轉スル事ナシ以上文
と見ゆたふ両説ともに猶いはれし事あり本
居翁のむん通用スベシの説ハ兼漏なり ムン通用すれ
處あり通用せざふ処あり然るに通用せば
事とおもはれるなれハ僻ことなり抑ンそ悉曇の空點に
似たふものなりて撥る韻の假字にそヌニムミに通用す
れども皇國訓にも音便にそイニミウヌムに通用すれ事既く翁の三音考にも説せし事あり言の首のイニミ等
にンと書てそ通用せば又ムそンに通用すれどもンの

如くヌニミにも通用せば然るに翁古の差別を思ひ
げる故にヌニ乃韻の字にもムとのゝかゝれしなり凡(スベ)
てンと書く事を嫌ひてムとのゝ書く事翁乃癖にて用
格乃序の安永にアムエイと傍假字を附られたる類乃
僻ことはあり此てまゝ義門法師の説に此んむ皇國
言ヲ記サンニハ原ヨリ其差別アルベカラズといたも
たるも僻ことなり其故ハ何曽(ナニゾ)をナンゾとそ書ゐく ナ
ムゾとハ書ゐしば結垣(キヌカキ)をキンカイとそ書ゐくキム
カイとそ書ゐしば件(クダリ)をクダンとハ書べく クダムと
ハ書べしば是らンとムとの差別ある処なり然(サ)はを

差別アルベカラズといはれるほそ僻説あらばや但ン
ム通用すれ処もあり懇（ネモゴロ）などそネンゴロともネムゴロ
とも通りし書づし是らそ末行乃通音あれバ上乃類と
ハ異なり又字音ニハ必別チアルベシ其別チハな行ニ
轉スル字トま行ニ轉スル字トヲ以テ分ツベシといは
れるれハ理に於て妨もなれど迂遠乃説にく初學乃
ため小便りなのらば是そ上にもいへる如く十七轉以下
乃八轉ハ漢音ヌ呉音ニ乃韻三十八轉以下乃四轉ハ漢
音ム呉音ミ乃韻あれバ上八轉乃ヌニの韻の字にムと
そ書づらばといはれきらむらうこともあくて心得

やすうめれ。さくムを下四轉乃韻に限まる假字にて。ン
そヌニムミに通ハしてそ書ゐられバ。これンム通用す
ふ処通用せざは処あれあ也。又法師乃説に。甚自牟深自美コ
レラノ字ヲむノ假字トシテんトハセズ尓レバんむノ
字音差別アルベキヿ必セリ。其んニシテむニアラザル
字ハ。信因等ノ字ナリ。といそれたるハ可不可乃説あ也。
甚深等ヲむノカナトシテ。といへはハ可あ也。んトハセ
ズといへるハ不可あ也。甚深等しんと書ゝ信因等ヲむニ
むも妨げあきをや
アラズといへるハ可あ也。んニシテといへるハ不可あ
也。凡ンそヌニムミともに通ハして書ゐき假字あれバ。

信因等乃字もンと書く事に定むはそ僻ことなり正しく漢音はそヌ呉音はそニと書屋きなり抑ん乃字そ无乃草躰なりともいひに乃尾を撥てにと書くなるともいひも乃尾を撥てもと書くるなりともいひ片假字乃ン乃字も无乃首をとれるなりともいひ二乃尾を撥るはなりともいひて政方が傭字例にンんハニに乃末を撥て造まはそのなりと治定せしハかるくなること師の音韻考證に委しく説きたるを見て覚るべし各其説を主張して一定なしべし以呂波便蒙鈔にンそ梵字ンに取まり梵書を按するに●を空點とも圓點ともいふ」を仰月とも莊嚴の點ともいふ其法ハ空點の音をなせ字に此點を加ふるなり俗にハヌルといふたとへそ[illegible]字をあんと呼ッ時にハ莊嚴の點を加へて[illegible]に作る類なり餘これに倣ふべし以上文此考得たりといふべし又既く白石翁もんそ梵字の空點をとるといはれき●そそ必ずれかくはれ其筆尻の勢ひ

空を指て撥る處ハ一なれどかれ悉曇乃空點◌に擬して
造り設けたる假字なれどけだも屋しかられば撥ぬ假
字にそ音訓ともにその文字に拘らじれ都て（スベ）ンんと書
らむ事あしくもあれど其故そ◌そ喉舌唇を兼たる點なれば。ヌニムミよ通りし用ひらるゝハ勿論
なそ猶いろくイウの韻ヌ用ゐもも亦理りなきにもあらん。ンと呼ぶ声も正しき音なるその
らで音便に訛れる声にてそれみ當（アテ）たるなこンの字なれば。
ヌニムミなどゝひとしなみに論らふぞのもの正しき
假字にそあらぬある故ム此字に對して論らひたるハ
當らぬ事と思ひ侍りしンムの論ハ姑くおきてヌムの
論ようす屋きそのなれ。さてそ安（アヌ）をアムとハ誤らず

れ。彼聖人そ人にしく。人ハ聖人にあらずといつれ如
く。廣く通ハし用づきン乃字を。一方に定はれ事ム乃字
に對して論らひたはそ。心よりのらぬ事ざなきうし。偖ム
撥にそも二撥にてそ妨なれ事にそンと書かむそあし
かゝざめ事。但物名の歌などよはむまそ。必又二ム三乃
假字を心得てよむづきなり。或人此心得なくて。目連寺の浅右衛門
といふことをかくして。秋もくれむし
此あさえもむしくにはさりやまゐる霜の庭鳥。とよもたる口つきハ達者な
れども。連をレム門をモムとよく誤りたるうしを。そこうかふかうしハはゝなきこ
ことなりかし。○又京極黄門の拾遺愚草に半臂をかくして。初まそとはひ
とよまれしかども。後に心はきてたゝひによりくらもし事あり。又草庵集ニ
ハ三衣筥をはりしらにさふえそことよもあ
やまれることなどもありと師のいはれなり。古今集物名。打いなに。
こしとや。乃牽又とアうたむ。乃膽等二ム乃假字正しれ

を見れべしそし牽(ケニ)乃字ハケンの假字なりといはず打
りあぺこしとやと書くべきにや又前に擧たる紫苑(シヲニ)乃
歌もこしぞんやひぞ又木丹(クタニ)も後ハあらたんなれその
を又蘭(ラニ)もとびしらんころなど書たらむにそなれ諾
ふそのあらむされバ信因引雲難遠散近等乃字を全く
ン撥ハあらざなことといちじろうと然(サ)る後義門法師
が是等ノ字ヲ其ん二シテといはれなれそ僻説なりそ
そ前に擧たる萬葉集の散釣(サニヅラフラ)サンヅラフ黄土粉(ハニフニヲ)ハニフ
ン不在君(アラナクニヲ)アラナクン今夕彈(コヨヒダニヲ)コヨヒダン湯鞍干(ユクラカニヲ)ユクラ
カ[illegible]など書たらむにハ其言とも聞ゆべく却て法師

乃ム乃假字にしてといはれるは金南兼三濫等そ今還
金黄始南遊兼知三散濫など書ともほどふぬしもあら
ざれバ信因等の字もン乃假字にしてとのゝもいひぶ
るかるべく男参甚曇深等乃字もムの假字にしてとの
ミハいひうゝ知らしあ事畢竟ンそヌニムミ小通用す
る処通用せざる処あ事といふこと我心得てあるべき
ありされバ又関政方が二字乃末を撥てンみ造事に字
の末を撥てんみ造るものありといへはもかゝる
まて全くンんそニに乃末を撥て造るものとも決定
あるべきと上件のにとんとの差別あるをそてさとる

べし。

因ニ云太宰春臺の和牘要領本居翁の漢字三音考の兩書ニ云字音を連属の音便に舌音ハタチツテトナニヌネノの音小呼ぶこと越王ヱツタウ八音ハツチン悉有シツ闕腋ケツテキ舌音ゼツトンの類ひ上の字ツと促ツマ韻の下ハ字喉音なるハ舌音タチツテトに換て呼ぶなり又南音ナンニン山雲サンヌン因縁インネン觀音クワンノンなど上の字ンと撥ハネたる下ハ字喉音なほそ舌音ナニヌネノに易て呼ぶなり以上文採要

と見えたるハ其例を知て其例の本原を決めざほ故小

既に南音（ナンニン）そ例格に違へ已。抑ツ此韻を夕行舌内なる故に。其舌韻に引かれて。音（インヲ）チン。有（ウヲ）ツと呼ぶなり。山（ハ）漢音サヌ吳音サニ。因（ハ）漢音イヌ吳音イニにて。是亦ナ行舌内乃韻なる故に。其韻に引きて雲（ウンヲ）ヌン。縁（エンヲ）ネン。と呼ぶなり。然（サ）て南（ハ）漢音ダム吳音ナミにて。唇内韻なること前に徴を擧たるが如し。されバ南音（ナンインハ）ナンミンと呼ぶ屋き格なり。其證そ三位（サムヰヲ）サンミ。浸淫瘡（シムイサウヲ）シンミサウ。和名抄に陰陽師（オムヤウシ）を心美佐宇。オンミヤウシと呼ぶこと。源氏物語須磨巻に。孟津入道右府そおんこやうじとよむ屋しと堅くのたまふなり。とあるを見ばべし。三浸陰（ハ）ともに唇内ヽ行乃韻なる故

に其韻ハ引きて位(井ヲ)ミ淫(イヲ)ミ陽(ヒヤウヲ)ミヤウと呼ぶなり孟津抄を作られるは天正乃頃はでもヌニ乃韻とムミ乃韻を混ぜざることいちじろきそのなり師説明ノ顧炎武も侵覃等ハ九韻をハ閉口之音といへり此韻実ハ撥るにハあらで口を閉る勢ひなればありいひて臻山等の韻ハ混せざる事末世といへども彼土も亦正しきものなり然はを纔ハ其一例を知てたしなべて舌音ナ行ハのミ易へ呼ぶ例なりといはれるはそ僻説なりけてナ行ハ易へて呼ぶ例あるそヌニ乃韻あれ明證ならばやさはを音便乃例のミ知て其例乃本(モト)原を考へられざりし故ハ是を推(シ)たよみして又二乃韻あること我了解(サトル)こと能ハば音便乃例にそ舌音ナ行といはれなどのら撥ふ韻乃すべての

假字をムとのミ出されるほそ考へ乃たゝざるありか
し然(サ)てかゝ證を擧ほことの多かる哉見るめうるさく
思ふ人もあゑれどたゞ大凡のゝいひおきたゝむまハ
疑ふ人あゝむとおぞのあく思されてなむ猶用格乃
始ゑ終アるいのふぞやとおぞゆるも見ゆれバ其條々
を次下に拔いでいさゝの今按をしるしそふ屋し
あいうえおノ五ノ音ノ下へ又各あいうえおノ五ノ音ヲ
重(カサ)ヌレバ自然トツヾマリテやいもえよわねうゑをノ音
トナルユアニ別ニ此二行ハアルナリ以上用格四丁左
此説諾(ウヅナ)ひがるし是そ三密抄ニ見ゑるる如く仁アル和合

して ヤ を生し ウ ア 和合して ワ を生ひと云ゐし志の心
得ふときハ次下（用格五十三左）乃韻ノいゐ之假字又（用格五十四左）下中之
わ之假字乃義（コハロ）なども自ら了解すべく。この伽（キヤ）車（シヤ）茶（チヤ）朱（シユ）春（シユン）
書（シヨ）松（シヨウ）彦（ギエン）花（クワ）光（クワウ）會（クワイ）官（クワン）郭（クワク）活（クワツ）源（グヱン）等乃拗音乃下中乃假字乃ヤ行
ワ行ハ限まる意なども自ら明らかなれば ゐし（猶其條々に委しくいふ事）
又（用格五左）喉音三行分生圖といふあるて第一アアハア云云
とあるそえうなき説にて是が為に却て初學乃惑ふこ
とあるア行そヤ行ワ行を生（ウム）乃母なれバ分生乃列に入
ゐきそのにあらばされそイアそヤを生（ウム）ウアそワを生（ウム）
云云いひてヤ行ワ行乃所生を知るべし但（シ）伊伊そ以を

生伊衣そ曳を生有有そ于を生あど出れ麁きそのあり
然らざれバ母子混じて理通ぜざるをや
十行各五音相通スル中ニ初五ト二四ト三五トハ殊ニヨク
通スルモ右ノ次第ニテイヅレモ其位隣近ナルガ故ナリ
以上用格七丁左
義門云イツクシウツクシ二三通ス マナブマネブ一四通以上文
按ゆ右ノ次第ニテと見ゆるそ用格六左イエアオウ乃説を
主張せられたりと見ゆれど其次第の隣近のうちまもよ
らざることゝ思ハはゝあり碓からうすかるうす一三通ともいふ
麁きゝ枯野乃舩ハ輕き義なほも亦同し鴨ひえどりひよどり萠黄

そえき そよぎ 四五通ともいふべしされどこれらをすべて相通
といふもいふ快のらば轉訛ところいふまゐしかれ 以上師説
山城國郡名愛宕於多岐阿多古ニモ愛宕ノ字ヲ用フ尾張郡名愛智阿伊知本阿
由知ナリ相模郡名愛甲阿由加波近江郡名愛智衣知トアル コ
レラ愛字ヲあえたトあ行ノ音ニ通用セリ 以上用格八丁左
といふもれあるを委しくのらず愛漢音アイ吳音くイなれ
そアをくも正音なるをやたゞし於多岐乃才を模韻ニ
通ふ古音なり
邑ノ字ヲいトたトニ用タルモあ行ノ通音ナリ 以上用格八丁左
これをまゝ僻説なり邑漢音イフ吳音オフなれそイを

オも正音なほを通音ありといそれしハ漢音イフなる
ことを心得られぢりしまや
あいうれノ四音ハ語ノ中(ナカラ)ニ在(ル)トキハ省ク例多シ以上用格八丁右
師説アイウオ乃外そ省く例なしとうけぢりでもいひ
ふゝうゝむゝ万葉集巻十五(卅一左)於(オ)毛(モ)布(フ)恵(ヱ)尓(ニ)とあるハ思(オモ)
フ故(ユヱ)ニなしむと或人云已同十八(十丁左)可(カ)敝(ヘ)流(ル)末(マ)能(ノ)とあほ
そ力ヘル山(ヤマ)ノなるべし又同八(十四左)何(ナニ)物(モノ)花(ハナ)其(ソ)毛(モ)同十七(四十七右)
人者見(ヒトノモノ)久(ミラク)尓(ニ)同十三(二丁左)真(マキ)割(サキ)持(モタル)古訓マサケモチとあり同十六(十五右)二布(ニノ)夫(ホ)尓(ニ)
咲(エミ)而(テ)寛云近世の文に白キフタノ俗ヨミノ布團などいふハも布(ヌノ)の省語なるべし同二(十一右)将見(ミム)圓(ロノ)山(ヤマ)乃(ノ)云云
などある類ひハいと異ゆうゐる省きざほなりされそ

アイウオ乃外も亦省く例なしとも決めがたし。以上文

烏字ハ御國ノ古書ニをノ假字ニ用ヒ汙モ又をノ假字ナレバ云云。凡テ悉曇ノ對譯ノ字ニテいねえ志れをハ分リ難キコトナリ。以上用格十丁左 採要

かゝ見えたるハいまぶよくそ考へられざるものにて。韻鏡第十二轉所属の字どもハ古音開口今音合口なることなれば。又御國の古書ハ假字ハ今音に據ヲ悉曇の對譯ハ字ハ古音に據ヲ見ていふことなれも考へられざるが故に烏汙等の字此方ハ古書にそヲ乃假字に用ゐたる故悉曇の對譯にそ才乃音に當テて用ゐたるに

よりて對譯の字にてそ。オヲそ分て難きことゝ思はれる
ゑれど。彼ハ古音に據て開音阿行乃オとし。此ハ今音
に據て合音和行乃ヲに用ゐたるといふことをだに
辨ふるゝバ。彼書にても此書にてもオヲそ明らかに分ふ
ことゝなるゝはを彼と此との用例異なる我思はれば
てオヲそ分て難きことなりといはれるはハ兼忽なる
づし。但此兩音用例のことハ先哲未發の說なれバ。但義門の說に
聊其端又ゑたれど。彼もイレウ于人工を分たざれバはゞなうなしぞ。疑ふ人もあはゞ爲ゑれど我そ彼
書と此書とゑわるして。各其用例の嚴重(オゴソカ)なることを悟
ふべきなるゝはて其大旨ハ卷下三十六丁韻鏡第十二轉開合の

條ニ辨ぜるを見て志ほ置きものぞ。

涅槃經ニハ長ヘニ野字ヲカキ。自餘ノ書ニハ多クやノ音ニ野字ヲカケリ。是又ヘトやト混セリ。凡テ梵音ハ如此混雜スベキヤウナシ。以上用格十丁右

按ニ梵音の混ドたるニハあらば。野字ハ漢音ヤ。吳音エ。なきバ。混槃經ハ吳音を用ゐ。自餘の書ニハ漢音を用ゐたるにて希見(メツラシ)からぬことなり。既に書紀の假字ニハ漢音吳音をほゞへ用ゐたりと翁もいはれたるにあらば。

や。又和名鈔卷二十四左徽賤類ニハ。邊鄙(アヅマド)阿豆万豆と四言の中に。豆字をヅの假字ゐもドの假字にも用ゐたり。かく同書

乃中にすら漢音と呉音とを用ゐたるを。はして別書(コトブミ)乃
うへにてハ野字をヤ乃假字にも工乃假字にも用ゐむ
ことめづらしからぬことなるをや。
既ニえトやト混ジうトれトサヘ混ゼルウヘハ何ゾれト
をヲ分ツコトヲ得ンヤ。以上用格十一左
前件ともいへは如くヤと工とハ漢呉乃差別のゝある
我此類ひをしも混雑をめと咎めむにハ。皇國乃古書
を古事記乃假字の外ハ凡て混雑乃咎を免はまじれを
のなわさてウと才も次下に擧たる鷗字韻鏡才三十七開轉漢音オウ呉音ウ。
のことならむにハ是も漢呉の差のゝあれど恐らくハ

前に出せる汙字乃ことなるべくれば。これ弐ウとヲと混じたりといふなり。然るに翁ウ于乃別音なることを辨へば。阿行乃ウにも和行の于にも。凡てうとのミ書カをたれば。辨を施ほに的なきが如し。たゞし汙字ハ〔説文〕烏故切〔玉篇〕一故切〔廣韻〕烏路切とあるに據るとれハ。漢音才吳音ウ乃假字といふ歴く。又〔玉篇〕於徒切第十二轉影母平声一等烏と同音〔廣韻〕音烏とあり〔説文〕に據るに烏そ根元於と同字にて。漢音才吳音ウなれば。これそれ混雜とも決キいがたなり。但烏汙等古音オウ。今音ヲ于あり。委曲に下卷三十六丁韻鏡第十二轉の條にいふをえるべし。抑翁四十七言にそ達したれど。いまだ五十言にそ達せられば。其證ハ翁の著

ハさまたる書ども許多ある中にもイレ井ウ于ヘエヱ等の論におよべることなしこれを以てウ于の別音なることを辨へられずとハいふなるよし

契冲又和字正濫要略ヲ著セル中ニイサヽカ字音ノ假字ニ云及セルコトアリ其説ニ反切ノ上字ヲ以テいねえ志をお等ヲ分ツベシト云ルハ誤ナリ假字ハ反切ニテ分ルヿニ非ズ強テ反切ヲ以テ分ントナラバ韻字ニヨルベシ韻字トハ下ノ字ヲ云喉音ノ三行ハ韻字ニテ分ルヽ所由ハナキニシモアラズ

○以上用格十二左

と見えたる兩説ともに猶盡さゞは処あり契冲師ハ反切の上の字を以て假字を分けことのゝ我知て下の字

によりて假字の分はくこともある格をしらば本居翁
そ下乃字ゐよりて分けことのゝ我知て上の字ハよりて
て分け格あることを辨へざれバ兩説ともハ非論と云
ゐし故今其兩格を擧て辨へむとれまづ切字によりて
假字を分け格そ韻鏡第二轉乃邕於容切まて原音イヨ
ウ次音オウなり同轉乃用余頌切まて原音レヨウ次音
ヨウなり第十轉乃韋于非切まて原音于井次音井なり
是反切乃上の字阿行乃於なるそ阿行乃イの假字耶行
乃余なるハ耶行のレ乃假字和行ハ于なるハ和行の井
ハ假字ゐて十行ともハ此格なり然るに本居翁韻鏡の

用例に委しうらざりし故ゆ次下（シモ）用格卅三丁ゆ王字乃反切違へ里といえれゆるなども原音と次音とを混ぜられたるぞ不見ゆてこともなき反切を疑ひ僻ことも説出られゆる也次ゆ韻字によりて假字乃分はゝ格そはだうふハ辨へられざるぞにて本文細書韻字ニテ分ルヽ所由ハナキニシモアラズとのゝいひて其格を擧ざはそ紛らハしきいひざはなり抑韻字によりて假字乃分はゝ格そ其韻字開口音なれバ阿行乃イウ人才合口音なれバ和行乃井干ヱヲなり其所由いのゑといふに喉音影母喩母一二三等そ開轉阿行合轉和行乃格太田翁の發明まで漢呉音図説ゆ委し。な

る故に其韻字開口音なれバ歸納字開轉に収ヨ其韻字
合口音なれバ歸納字合轉に収ヨ故に阿行と和行とに
分ほゝなり猶其例を擧て論さむに〔玉篇〕韻ハ為鎮切と有
て切字を和行乃為なれども韻字乃鎮字韻鏡第十七開
轉知母三等に収たれバ歸納乃韻字同轉喩母三等に収
て開轉阿行乃格すてインの假字あり〔同書〕尉ハ於貴切と
有て切字を阿行乃於なれども韻字乃貴字第十合轉見
母三等に収たれバ歸納乃尉字同轉影母三等に収て合
轉和行乃格すて井乃假字あり又音ハ於今切すて切字も
阿行の於韻字乃今も第三十八開轉見母三等ヨ収むべ

き字なれバ。歸納乃音字。同轉影母三等に収て。開轉阿行乃格まて漢音イム吳音オム乃假字なり。又温ハ於魂切とれも切字そ阿行乃於なれども。韻字乃魂字第十八合轉。匣母一等に収たれバ。歸納乃温字同轉影母一等に収て。合轉和行乃格ゆてヲン乃假字なりかゝ切字ハ同ド於字ゆても。韻字よりてイレ井。ヽエヱオヲ等に其假字そ分ゆゝなぐし此格そ影喩二母ゆ限まることよて餘乃行よそなきことなり。然るに翁本文細書假字ハ反切ニテ分ルヽコトニ非ズといはれたるハ卒忽にて。たまゝ

皇國乃古書に漢土乃反切乃協ハざなそのある

をそていたましなるべけれどそハ彼國にて後ゐ當時(ソノトキ)
乃音に合せて反切を改しそのと見ゆるなり。梵漢對譯字類編云。弘法
大師曰。諸字ノ註声須檢翻譯之年代以決梵音之清切云云とあるをみるべし。彼土翻譯の年代によりて音註乃異同あること古代よりの事なり。
彼國乃反切音註ハ我國にて文字乃傍に假字を副たる
如くなるそのなれバ。其時代によりて音註反切乃違ひ
あること。字彙の音註反切と。説文玉篇等と大に異なるを見てもしるべし。たとへバ我國にて
も。天暦以降ハ假字乃法則みぶれて。たのがはなく假
字を施し。次第に法則を失へるが如く。又定家假字とて
異ゆうなる法則を建て。一家乃假字を定めたる類にて。
今も儒者と稱して漢籍のミ學びて。皇國乃書を學バ

ざほ者乃著したる書ゆそ假字違ひハ常ゝことにて論
ま及ぞばさしも聲價(キコエ)高かりし太田錦城乃梧窓漫筆な
ど我見ゆにも假字の法則そ聊もしらざほそのと思ハ
るこれらまても漢土乃反切の後に誤まることを了解(サトル)
べし殊に彼國そ天子乃改易あるにより漫に古典を改
革することあり故ニ皇國乃萬世不易乃古音乃ほゝな
るまハ合ハざほそのあ已其類ひハ姑く古音今音とも
いふ歟し但シ韻字に依て開合を分けといふ説そ猶論あ已巻下二十五右に
云と見るべし又古音今音の説ハ巻下二十右尹ノ字ノ條に委し

第十一轉ハ合也一本ニ開トスルハ非ナリ ○以上用格十六右

と見えたるそ却て非なり開轉なること太田翁乃漢呉

音圖說十七右乃辨白日乃如し然るを本居翁合轉とせらるを
たる故に於捴飫等の音輕しとそいふれぬからになる
くれと臆說をたてられ用格十七右ゐ開合指掌圖などいふ
贅物を作ア出されて才乃音を開合ニ渉ルなど非論を
そ說出られたるそのなり古板本第十一轉開とある小
從へバ敢て指掌圖などの新製にたよぞ才の音を開
口なることいさゝかも論なきそのをやたゞし緯ゐ據
て論するときそウを脣本才を脣末なればウゐ属して
イ人よりを聊重し委しくいふときそイ人を輕中乃輕ウオを輕
中ゐ重なり猶微細に論するときそ本末ゐ差別
あれそオそウより
ハ又いさゝか輕し

御國ニ傳ハル処ノ漢呉音ハ共ニ古ヘマノアタリ彼國人ノ
口ニ呼ブ聲ヲ聞テソレヲ此方ノ音ニ協ヘテ定メシモノ
ナレバ喉音三行ノ假字モ彼人ノ呼ブ聲ニツキテ分チシ
モノナリ以上用格十五右

義門云臆断無誓ノ僻説ナリ以上文

と見えたる法師乃餘論却て非なり實ゲ小彼國人乃口ゐ
呼ぶ聲イレ井ウ于ヽ工ヱオヲ等の差別詳明アキラカなりしも
のなりけむ志ゞの思ハはゝ故ハ彼れ韻鏡ニ力行を牙音
と喉音とに分ち擧たるも其牙ゐ觸れて呼ぶ聲と喉乃
奥にて呼ぶ聲と詳明小分アリ故なほべし然あらざれ

バ同じ力行を牙音と喉音とに分ち擧ゞ置きいそれなし。
されバ喉音三行（イヤウそアウと切ア。レヤウそヤウと切ア。井ヤウそワウと切ア。ウと切るをもてれもの。イレ井の三音彼國人の呼ぶ声。詳明に分りしなるべし。ウ手。ヱヱ。オヲそれして知るべし。）も此レと同じぢやうにて分ちたるその
と思ハ、なるを。又漢土悉曇の音註も此ノ属ひまして天竺人
の口に呼ぶ聲を漢人はのあるり打聞て。それに協へて
音註を擧たるそのなるべし。これらをそて推量るに翁
の心のいきいともかゝめでゝるきことにこそ。
漢音ト呉音トニテ開合ノ力ハルコトアルヲ。（有右由丘久流等字。漢音ゆうきう
アうハ開音。うゆくるハ合音ナルガゴトシ。）○（以上用格十七左）
義門云是モ合音ナルニハアラズ。元原（モト）いーゆきーゆアーゆニ

テ開音ナリ。うゐくるハ轉セル常呼ノミ。以上文

按ニ有右由久丘流等ヲ漢吳共ニ原音ハ開。次音ハ合なるを。漢音ト吳音トニテ開合ノカハルコトアリ。といふ證ニ引きたるそ僻ことなり。又イウキウリウと擧られそ。ユウ乃音を擧られざるハ。有右由三字同音と思はれたほ。ニうり抑翁四十七音そ明らめられるほど。未ダ五十音を明らめられず。阿行の亻と耶行の丨と別音なること。試辨へられざりト故に有右由共にイユウ。イウの音なるを。と思ひ誤られしそのと見ゆ。然るに有字有右同音そ韻鏡第三十七開轉喩母三等ニ収て。開轉阿行乃格ニ。漢原音

イユウなるをイウと呼ぶハ中略和音なり。父丘もキユウなるをキウと呼び。流もリユウなるをリウと呼ぶも同例なり。由字も同轉同母四等に収て耶行乃定位にて漢原音レユウ。次音ユウなり。平假字の也ハ由の草体なるにても。ユウ乃音なることいちじろなり。されバイウユウキウリウと擧られざるハ誤なり。然らばもバ呉次音ウユクルの對にも協ハざるものをや。扨又義門法師の元原(モト)いもきもりもニテといたれるにもイユとレユと別音なることハしらざるに見ていこのぶなり。又うもくるハ轉ゼル常呼ノミといたれしも誤なり。有由久流も呉原音イユレユキユリユにて次音ウユクルなり。されバ呉次音なりところいふ事き

そのなれ。

あ行ノいえトや行ノいえト同字ナルハ共ニ開音。あ行ノうトわ行ノうト同字ナルハ共ニ合音ナル故ナリ。以上用格十八左

かくいたれしも僻説にて阿行乃イ乙と耶行乃レエと同字にあらば阿行のウ和行の于もまた同字ならば故いさゝの其端を擧て辨へむとす韻鏡第三十七開轉影母一等に収なる歐字ハ漢原音イヨウ次音オウなり同轉同母四等に収なる幽字ハ漢原音レユウ次音ユウなり其原音阿行乃イなるハ次音阿行のオなり原音耶行のレなるハ次音耶行のユなるを以てイレ同字にあらざ

は徴とすべし次ハ前條に擧たる有字漢原音イユウ中略和音イウ吳原音イユ次音ウまてこれ阿行のウなり第十二轉喩母三等ハ収たる芋漢原音井ユ次音于ハて

これ和行乃于なり猶此属ひ漢吳音圖説にいくらとも

あるを往て見るべし又活語乃得くウウル等ハ阿行乃

ウくにして和行の于ヱにあらば越コエコユコユル等

そ耶行のエにして阿行のくにあらば居スヱス于ス于

ル等ハ和行の于ヱにして阿行のウくにあらば又スワ

ランスワリスワルとも活らき井井ル井レとも活らき

て書紀巻五崇神御巻八右ハ急居此ヲ云菟岐于と見えたはそ

突居(ツキヰル)乃井ルを約(ツヾ)めて于といへるゆゑて和行の于卫ある明證とすべし。詞乃やちまゝる急居(ツキヰ)を和行中二段の活詞の列に出されたるハ誤なり。こハ雪消(ユキギエ)ヲユキゲといふ類まで約めたるうへまそハ体言とあれはそのなり。猶万葉集の假字を見ても了解(サトル)べく又此大旨ハ詞ハ衢ゆも詳に見ゆれば心を止めて見るべきなり。

前條有由を混ドたるもイレ同音と思ひれるる故の誤なり。

三會圖 用格十九左

といふそのそ贅物なりと既く太田翁もいはれてそれが中にも第一會ハたゞ無用乃物といふのえなるべし。第二會第三會乃いはゞの用立ぬき圖すゝ是が為に却て紛らはしくなれるそのなり。第二會なる圖せむにそ及ばず。イア和合して生はゝ処乃ヤなれば拗

音乃上ミの聲イ緯なるハ。その下の韻必ヤ行なりと説さ
たしむこう悟易(サトリヤス)なる歴々れ。第三會も此ぢやうにて。ウ
ア和合して生ぬ処乃ロなれバ。上ミの聲ウ緯なるハ。下
乃韻必ワ行ハ限せることゞと説られたしむこうよう
しめ。志の心得て伽車松廚慮(キヤシヤシヨウチユリヨ)。又果光源(クワクワウグヱン)等の如き耳近き
拗音を呼び試ミ考へたしむにハ。初學と云とも了易(サトリヤス)か
るべし。扨拗音乃例イ緯そヤ行ウ緯そワ行ハ限せること
とまて。餘乃緯まも經まもなきことハ。元来(モト)ヤ行ワ行ハ
所生乃行にて。餘乃行と異なる故ゆゑ。
不甫鳩(ハホキウ)切婦(ハ)房久切ニテ。共ニ漢音(ハ)むうナルヲ。ふト呼ビ云云

以上用格
二十右

むうナルヲといそれたるハ誤なり不婦共ニ漢原音ヒユウ次音フウ呉原音ヒユ次音フなるをやたゞしヒウの約めもフとなれバ咎あらじともいふ屋ゑれど凡て原音ハ拗音なるを次音ハ直音ニ呼ぶ例なり志てのるにヒウそ拗音にあらぐ其故如何と云ニウそワを生むの父字なれバ拗音の下ノ字ニウノ字を用たる例なし イもやを生むの父字なる故に拗音の下ノウ字ハ用たる例なし

そ引く音の韻ニ用ゐる字ハ強くこれハワを生むのウニハあらぐしてワ行乃于なりねどもいふべくれどもそもまこイ緯れヒよりワ行ニ連くること拗音の例にあらざれバなれ非論なり

されバフの原音そヒユにしてヒウにあらざるこ

といちじろきを翁この格に委しくのらじ。たゞ延約をも
て原音を推當たるハ僻ことあり。故次下にも問ムン。腹
ヒクありといへれしあども同しぢやうの誤あり。
問亡運反呉音むんナルヲそんト呼中略腹弗鞠反ひくナル
ヲふくト呼此類ナホ多シ。コレラ反切ニカナハズトテ訛
ナリト思フハ。返テ古ヘヲ知ザル者ゾ。凡テ鄙俚ナル音ハ嫌
ヒテ。故ニ轉ジテ定メシモノナリ。以上用格二十右
按ニ問原音亡運切ムヲン。次音亡運切モン。腹原音弗鞠切ヒユ
ク。次音弗鞠切フクにて。反切にも協ひ原音次音乃格にて
協へ。上にもいへる如く。翁ハ原音の拗音あるに心を

うれずして漫(ミダリ)ムーンヒーク等の音ありとせられしから
に反切ハ協ハざるをや次ハ故(コトサラ)ニ轉ジテ定メシモノ之
といそれたるハ甚(イミ)じき強(シヒ)ごとありそしてその轉じて此
方にて新たに定められたる字音あらむにハ漢土の韻
書悉曇の對譯等の字音ハ此方の字音の合ふ事きいそ
もなき哉今此方の字音をもて漢土乃韻書對譯等乃字
音を比校し試ふに凡てよく符合せり故思(レ)ふに此方の
字音ハ阿直和迩等が漢土の字音を傳へしはらの音な
ほこと明らかしたゞし急(ツマル)掣韻を緩(ユルヤカ)舒ハ呼ぶあどハ故(コトサラ)
ハ改め定むるとにハあらざれども風土の自然による

物なるべし又風土になりて聲の色ハ異なることもあ
る雖なれど音ハ正(マサ)しく漢土乃音を傳へしそのとおも
ハなゝなり乃ハ同郷此人すてゝ聲なき者と聲なろさ
者とハ聲の色そ異なれども音ハ全く同しきを以て了(シ)
解(ル)べし然るに翁乃説の如く故(コトサラ)ニ轉ジテ定メシモノナ
りといそむよハ韻書等も不用の物にして唯漢土の文
字をのみ借て其音ハ古れハ鄙俚なり今れハ不雅なり
と我ゆゝに轉じて用ゐる雖きこのうてハ何に據てこの字
音就そ正しべき抑字音ハ漢呉共に原音次音の中にて
原音を常呼とするあり次音を常呼とするあり又適(タマ)々

ハ伽字キヤカ水字ス井シ等の如き原次通用の文字も
あれども鄙俚なりとて轉じ定めし音といふことハぬ
いになきことゆゑたゞし佛家又ハ有識家等各家傳の
讀くせあらむハ格別乃ことなりほゝ端詞消息文などゝ
ゝ正しくいそぐ出ハくしく聞ゑむくらゝ。なぐらめ
て音便ゝいへるもほゝあゑ是ハ字音のゝにも限らず。
皇國言乃うへまもあることまて此類ひハ正音の格
なら祢バ。ゆめくひとつゝ混ずべからず。
凡テ拗音ハモト御國ノ音ニ非ズシテ多クハ不雅ナルガ
故ニ中畧直音ニ轉ジ呼フ者多シ中畧倶字ハ擧朱反ニテきゆ

ナルヲくと呼ヒ縷ハカ主反卫セナルヲるト呼ビ中畧風字
ハ方戎(ハウジユウノ)反乞セうナルヲふうト呼ビ豐モ芳馮(ハウヒユウ)又敷弓(フキユウ)反乞
セうナルヲひうト呼ブ又允尹ハ共ニ余準反いセんナル
ヲねんト呼ビ云云以上用格二十一丁採要
これも不雅ありとて直音ニ轉ジ呼ぶニハあらぬ倶字
そ漢原音キユ次音ク縷字そ漢原音リユ次音ル風字ハ
漢原音ヒユウ次音フウにて以上三字ハ漢次音を常呼
とせるなり豐字ハ漢原音ヒユウ次音フウ吳原音ヒヨ
ウ次音ホウにて吳次音を常呼とせるなり故(コトサラ)ニ轉ジ呼
ぶにそあらぬ殊にヒユウなるをホウと呼ぶ例ハ如の

はなきことぞかし又尹もイユンなるを井ンと呼ぶは
そあらば（尹の音の事ハ下巻三丁右にいふをみるべし）
其韻字ト帰納ノ音トヲ相照シテ本拗音ナルヲ直音ニ轉
シタルコトヲ悟ルヘシ（以上用格二十一右）
これも轉ドたるはハあらで原音ハ拗音まて次音ハ直
音なるを次音を常呼とせるにこうあれ左（ト）は右（カク）は拗音
を嫌ふこと翁乃癖なり御國言乃うへハさもあらばあ
れ字音そ又格別まて直音のゝを雅なりとも決めがつ
うるべし天平（テンヘイ）テンヒヤウ天慶（テンケイ）テンキヤウなど（師説年号ハ大方呉
音の例なれど又漢音を用ゐられるもあるそひとやうはいひぶるし拗音の方なぞうは聞ゑそ

て直音ハ却て去ハくしく聞ゆるをも思ふべしたゞし
此類ひハ物語文などよハ吳音を用ゐる例なりともい
ふべけれど拗音をきしふ癖を解むまでの論らひよこ
ろ

又漢音ト吳音トニテ拗直ノ轉換スルコト多シ香ノ字漢
きやう吳かう云云 以上用格二十二左

これハ慶字漢原音キエイ次音ケイ吳原音キヤウ次音
カウ乃属ひ漢吳共ニ原音ハ拗音次音ハ直音なる例格
なるさるを漢ハ次音を常呼とし吳ハ原音を常呼とせ
はふて全く漢音と吳音とにて拗直乃轉換するよハあ

らざるをやされバ香字漢きゆう吳かうといふれあるも諸ひがゝり按ふに香字漢原音キヤウ次音カウ吳原音キヨウ次音コウなるべし志の思ひなれる所由ハ延喜式卷五齋宮忌詞乃條に堂稱香燃と見ゑたるコリそコウ乃轉韻なるべし鈴木康侯云コリタキそカヲリタキ乃約言かと此考も捨がゝられど姑く音に就て論ひ たゞし漢吳音圖前本文化年中製本にハ香カウ キヤウ クロウ カウとあるしを后本天保年中製本にハ香カウ キヤウ キヤウ カウと改られたるされど猶按ふに第三十一轉諸字凡て吳次音上才緯なるべし其故ハ万葉集卷五廿三左ゟ當轉乃方字哉於忘方ホ由流と ホ乃假字に用ひたるも此格なり師說忘も亦同例なり猶いまだ同卷同葉に阿麻越等賣可忘○類聚名義鈔に方甫亡反和音ハウ ホウ○仁德紀に虛々呂破望

閉耐云云枳弥烏於堅臂泥云云○神武紀ニ愛弥詩烏毗懷利毛々那比苫云云○允恭紀ニ阿摩儴霧箇留惋等賣云云和名鈔ニ日向郡名諸縣牟良加多同書鹽梅類未醬美蘇○字鏡集ニ作サソサク惡アクヲ○新撰字鏡ニ作則俗音則盧反ナリ此外同例多シ坐文

ハれバ當轉乃諸字

吳次音上才緯ナルコトヲ決ナリ

第三會圖ノ諸音ハわゐうゑをニ属シテ是モ皆拗音ナリ

然ルニ中畧せねけねるね又藥名ノ茴香ヲうゐきゆうト呼ビ煨ヲうゐスルト云是モ同例ノ拗音之ワヅ

力ニ是ラノミ本音ノマヽニ呼テ餘ハ悉直音ニ轉ゼリ以上

用格二十二丁採要

かくいたれたるを僻説ナリワ井于ヱヲに属する諸音

皆拗音なるにハあらぐ□ワヱヲに属するものハ拗音ニ

して井于に属するものハ直音乃韻なり其故を井于を

阿行乃イウ〖〗と見いだめんがるれどのりの音なれバ二言
を正しく二言に聞えて拗音にハならざるなり猶音圖の巻末韻之
いね之條に委しく辨ぜるをも見るべし既に翁も用格二十左三會圖にクウ〖〗スウヅウ〖〗等を直音
之長以上文といはれなるべし あらにハ皆拗音ナリ といはれるるをいこのぐ不井ツ井ル井等
乃直音の韻なることに心はくのれざりしハ失考なり次
ゐ茴字ハ〔玉篇〕胡魁切〔廣韻〕戸恢切韻鏡第十四合轉匣母一
等回同音にて漢原音クワイ次音カイ吳原音于ヱ次音
ヱなり然るに〔字彙〕にハ茴ハ于嬀切音為とあり為字を韻
鏡第五合轉喩母三等に収て漢原音于井次音井なり
れバ茴字于井と呼ぶハ字彙乃音なり吳轉音于ワイ乃中畧とも云ゐられども扨

そイと井と混雑不快といふ事し。煨字ハ〔玉篇〕烏回切〔廣韻〕烏恢切。韻鏡同轉影母一等隈同音。漢原音于ワイ。次音ワイ。吳原音于ヱ。次音ヱなり。茴と煨と同轉ハ収ゆふといへども。同母ゆあらざは故ニ。漢音ハ同音ニ非ず。同音にあらざれバ同例とハいひがたかるべし。春臺ハ煨ヲウ井ト呼フハ華音也。といへれど此説も諾ひがたし。思ふにそ于ワイ乃中畧于イ煨を和訓栞にそういとよむといへり。にて其イを井に錯まるそのなるべし。抑ウそ合口音にしてワを生む乃父なほ故。それに引かれて于井と呼ぶこと自然乃勢ひにて。同轉舌音の對そツワイ乃中略ツイなるをも。初學の徒そ中略和音とまでハ心はかずして。第七轉乃追字

原音ツ井等の格ニ混じて。これをるツ井乃假字なるべしなど思ひ惑ふあれバ。よく心せずそ錯りぬるさものなゐかし。又于ヱスル哉。于井スルと訛まるものともいふべし。次ニ餘ハ悉ク直音ニ轉ゼリ。以上文といそれなるも僻説なり。于ワイ。于ヱ等ハ原音ニて。ワイ。ヱ等ハ次音なゐことさらに轉じたるにハあらざるをや。

然ルヲ世ニ是ヲ皆本ヨリノ直音ト心得テ。實ハ拗音ナル。コトヲハ知ラズ。万葉集ニ水ノ字ヲ志ノ假字ニ用タル。コレ拗ヲ直ニ轉ジタル例證ナリ。○以上用格上ノ文ノ続キ

例乃僻説なり。水ノ字ス井と呼ぶハ漢ノ原音にて。シ‖と呼ぶハ次音なゐ轉じたるにハあらぬ。又拗ヲ直ニといそれ

そもどス井そ拗音ゐあらば直音ニ言ヨ呼ぶ事ぞ。同轉乃推翠（スイ）等乃音ゑてもいちじろ。猶委しくハ音圖巻末ニ云るを見合はべし但し拗音の中乃假字ゑそ井を用ふ例あり。もし拗音とそ漢原音ス井乃ことハ非ず。呉原音スワイのことなるゆゑどもいふ事なれど。其スワイ乃音あることをしられたらむまそ。次ノ條ニ見ヨ。注ヨ等ノ音モ有ベク。との疑ハ有ましきことなり。轉じたゆ證とハいちるゆゑじきことなれバ。猶ス井を拗音と思ひたるなめれど。ス井そ拗音ゑあらば。イそヤを生むの父字。ウそワを生むの父字なれバ。其緯の上井于そ。アヽ才乃緯のヤエヨ。ユそウ緯なれとも。ウの音ニ遠々れバヤエヨ不属くなし。ワヱヲとハ異ゑて。父字乃イウに紛せむだのり

此音なれそレ井干ハ下にあるときそイ二ミウヌム乃
如く入声乃韻のキチヒクツフもイ緯ウ緯あるにても直音乃韻なり
井干そ直言の韻あることをさとるべし
たゞし中にあるときにハ椿ツ井ヌ均ク井ヌ匡ク井ヤウ等拗音に呼ぶべき
例なれども呼びにくき故にや原音を常呼とするもの少く椿ハチン
均ハキン等次音のミ常呼とし
匡も常にキヤウと呼べり

ソモくかノ外ニくヨノ音アルカラハさノ外ニそヨたノ
外ニけヨなノ外ニぬヨそノ外ニふヨまノ外ニむヨらノ
外ニるヨノ音モアルベク云云以上用格二十二右
かく疑せたるハ未しきことなヨ右の音の文字ども一
ツ二ツ撰出て慥にあることを證すべし坐但果反原音ス
ワ次音サ朶丁果反原音ツワ次音タ捼奴禾反原音又ロ次音

ナ波（逋禾反）原音フワ次音ハ磨（摸卧反）原音ムワ次音マ躶（郎果反）原音ルワ次音ラなり是等反切乃韻字ニ就て考へ見ほべし原音ハ必スワッワ等なりでハ協ハざることなり

（かく原音ハ拗音なることを辨へたらむにハ次下用格四十三匡王等乃反切の疑も自ら解づきそのあり）かぢりといらじろきそのをアルベクと疑をたるを思ふに上件乃水字に吳原音スワイ乃音あるとハ心得られざるしことおもふべし

志ノ外ニもねちノ外ニはねるノ外ニるねノ音アルカラハきノ外ニくねふノ外ニぬねむノ外ニふねみノ外ニむねノ音モアルベキコト圖ニテ悟ルベシ（以上用格二十二右）

かく見えたる中ク井乃音ハ規季帰等字漢原音ク井次
音キにて韻鏡第五第七第十轉牙音乃諸字皆同格なり
フ井乃音ハ非費廢等字漢原音フ井次音ヒ小て第十轉
脣音の諸字皆同格なれバ此二音此文字そいくらもあ
ることいふはでもなしさそヌ井ム井乃音ハぬりみの
ふはじきことなりハ第七轉乃諉字漢原音ツ井次音
チ呉原音ヌロイ次音ナイ又次音二小てヌ井の音なし
ヌロイを中畧してヌイといふ音あり類聚名義抄
異本弘安礼節ホヨミ也こハヌ井ハあらハ混まぐれらハ第十轉乃微尾
未等字漢原音ブ井次音ビ呉原音ムロイ次音マイ又次
音ミ小てム井の音なし是等をもてヌ井ム井乃音なき

こと我悟るべし字音ハ元来自然の物なれハ風土ふ与
りて漢ハあまて吳ハなき音も有はべく又吳ハ
あまて漢ハなき音もあはべきなり其證ハ漢土にそ
ラインリンルーンレーンローン等の音もある我 皇國にそラ
行乃音と濁音とを言首ふいふ語ハなきが如く漢音に
そナ行とマ行との音なく吳音にそ上ウ緯乃音に井韻
なるハ絶てなきことなまを又吳音ナ行マ行なるそ漢音ハ必濁音なる格なまを さほを翁
是等乃格ふ精しからば見るくしに三會圖といふ贅物
を製まて出て其圖ふ據て又井ヶ井乃音もあるべきことと
いとれたるそいとじきたひごとなまを これらにそも三會圖の贅物なることを悟

ふ酉 ○或人難していつらく明名命ナト呉音みやう漢音めいニテ南字ハ漢呉同音なんノ音ニアラズヤ然レバ漢音ニな行ま行ノ音ナシトハイヒガタカルベシ○答へあらく明名命等漢原音ビエイ次音ベイにてメイと呼ぶそ轉音なり南字廣韻那含切男同音漢音ダム呉音ナムにて延壽院玄朔乃養生語を書あるそのに檀紙を南紙と書なることなり異本弘安禮節に南庭檀庭南座勾當檀座勾當とある何もも南をダンと讀でさ徴なりと師もいられたりされバ漢音なナ行マ行乃音なしとそいふなりかし

變化ヲ亀んぐ恵源氏ヲぐ恵んど中畧ミダリニ拗音ニ呼ビナセル
ニハ非ズコレミナ合口音ノ字ニテ本ヨリ此圖中ノ拗音
ナルガタヽく本音ノヽヽニ云ルモノナリ以上用格二十三右採要
みだりに拗音に呼びなせるにあらざることハいふま
でもあることなれバ其拗音乃格をこゝ論ふ亀ことと
あれ故其格を擧て辨つむとす化字ハ漢原音クワ次音カ
吳原音クヱ次音ケにて源字ハ漢原音グヱ又次音ゲヌ吳ノ
原言グワニ次音ガニあるさて吳音クヱあるハ漢音ク
ワ漢音グヱヌあるハ吳音グワニ小て原音ハ共ニ拗音
なるこれ上ウ緯下ワ行にて合轉拗音乃格あるし又開轉

ふそ此例ありて。ろハ上ミイ緯下ヤ行なる格なり。今その格を擧て辨へむに。氣字ハ漢原音カイ次音キ。吳原音キエ次音ケ。伽字ハ漢原音キヤ次音カ。吳原音キエ次音ケ。言字ハ漢原音ギエヌ次音ゲヌ。吳原音ギヨニ次音ゴニなり。然るに翁の説のはゝにてハ。初學の徒拗音ハ合口音ふのミあはらとゝ思ひ誤りぬ。故レ今源字に對して。言字を擧て示すを見るべし。次音にてハ共にゲンなれども。合轉の源字ハ原音グヱン。開轉の言字ハ原音ギエンなはすて。開合の差別も分明(アキラカ)なり。化そクヱ。氣そキエもおなし格なり。みだりにケをクヱ。ゲンをグヱンと書べきそのにハあらざはこと

モ悟ヒ得てよ。なれ巻下三十二右クヰキ此條ハいふを見るべし。

拗ヲ直ニ轉ゼル例ノミコソ多ケレ。直ヲ拗ニ轉ゼル例ハアルコトナシ。○以上用格二十三左 本文細書

義門云鶴ハ韻鏡三十一轉涸字ニ属シテ下各切字彙昌各切音涸ト有ヲくヒくト呼コト。原音ノきやくニハ音遠ケレバ。旦涸ヲかくト呼ビテきやくト云ハザルヲモ考フベシ。次音ノかくナルヲくヒくト呼ブハ。直ヲ拗ニ轉ジタルナリ。但是ハ俗習ナレドモ。下ノ清濁ノ論ニ至テ。濁ルヽジキ字ヲ俗習ニ濁レルヲ改ルヿナク。濁音ノ列ニ加ヘタルハ。舊執ヲ改ベカラザルノ意カ。然ラバ鶴ヲくヒくト呼ヲモ。改ベカラズト云ンカ。然ル時ハ直ヲ

拗ニ轉ジタル例ナシトノ論ハイカヾナリ。以上文

按ニ畫字も字彙の傍假字。又和牘要領等に畫クワクと假字副(ツケ)たれバ。春臺などもその心得し物と見ゑ俗にもクワクと呼べ已。然ほに畫字ハ〔說文〕胡麥切〔玉篇〕乎麥切と見ゑて。韻鏡第三十五開轉匣母二等に収む屬さ字にて。漢原音キヤク次音カクなほを〔廣韻〕胡麥切。覈に屬れ屬れを獲に屬せ已。師說韻會卦韻に畫ハ胡界切音与壞同とも是カイとクワイと混しきりカクとクワクとも混合も此項よりそぎしそめしなるべし。さて獲字〔說文〕胡伯切とある に據るときそ第三十三開轉匣母二等に収て。原音キヤク次音カクなほべく〔玉篇〕為麥切とあるに據るとれハ。第三十五開轉喩

母二等に収てこれも原音キヤク次音カクなる歴く〔廣
韻〕胡麥切とあるも同轉匣母二等に収て同音なほ歴し
然ほに〔韻鏡易解〕〔磨光韻鏡〕〔漢呉音圖〕等第三十六合轉匣
母二等に収て原音クワクと見えたるそ恐らくハ〔字彙〕
に獲霍國切とあるにもりて霍國ノ切に據るときハ第四十三合轉
曉母一等に収む歴き格なるをさそ
そ原音クヲク次音コク
そカクの音なき故に第三十六合轉に収たるハ後人乃ちの
しらにそあらざほかされど是も常にクワクと呼ぶな
れバ鶴も同ぢゆう乃訛音なほ歴しかく開口音を合口
音に訛ることハ近昔の頃までもぬけになきことゝお
ぼしなれバ無下に近世の俗習なるべし

假字ノマギルヽヿ無キ音ノ字ハ擧ルヿナシ又マギルヽ
モ悉ハ擧ガタケレバタヾ日用ノ近キ字ノミヲ出ス餘ハ
同韻ノ例ヲ以テモ推テ知ルベク又大氐ハ同傍(オナシツクリ)ナドノ例ニ
テモ違ハズ飴(イ)怡(イ)貽(イ)同ジク惟(井)帷(井)唯(井)同ジキガ如シ以上用格二十六左
此説も従ひがるゝ同韻乃例を以て推て知るハ韻學に
達せしうへのことなり韻學に達せる人ハ用格みよう
ばともありなむさてハ初學の為いと不便なりけり又
大氐ハ同傍(オナシツクリ)ナドノ例ニテモ違ハズといへれたるも僻
事なり時字シ持字チにて傍(ツクリ)ハ同し寺字なり此類ひ何
ぞも有て童蒙も知まることにて太田翁も假字ハ同

傍ニテモ違フモノイクラモアリといはれたる。用格に出せ処纔に一千七百餘字にて。日用乃近き字もたゞざれバ。今ハ一万一千二百餘字を挙て。同韻の例を推て知るの労もなく。又同傍などの例云云の僻ことをも用ゐばして。闕たることなのらんとは。はゝ惟井惟井唯同ジキガ如シといはれたるも錯なり。惟唯そ丨乃假字。たゞし惟唯等古書どもの傍假字井とあるハ。原音ユ井のユを省そるなるべしされバ。井とかゝむも理りなきにハたゞざれども。帷とひとしなるに擧づきものにハあらず。帷そ井の假字なる。其故ハ惟唯共に韻鏡第七合轉喩母四等に収て。耶行の定位なるのゝなれば。惟ハ〔説文〕〔廣韻〕並以追切〔玉篇〕弋隹切と見ゑて。唯ハ〔説文〕以水切〔玉篇〕俞誰切〔廣韻〕以追切。又以癸切と見ゑたる。切字みな耶行の以俞弋等なる。喉音三行の假字ハ。切字のゝにて分るゝにハあらざれども。又據る処なきにもあらず。然はゝ惟ハ同轉同母三等に収て。合轉

和行乃格なるうへに〔説文〕〔廣韻〕並洧悲切〔玉篇〕于眉切と
ある切字も和行の于洧等なるを據とすべしさて此三
等四等の辨ハ漢呉音圖説の影喩二母の一等二等三等を開
發明の如く
轉ハ阿行合轉ハ和行乃格にて四等ハ開合共ニ耶行の定位
なり其證(アカシ)とさむもの同轉同母去声三等の位ハ原音于井
次音井ニて四等の遺ハ原音ユ井次音レなり第三十一開
轉影母三等の央ハ原音イヤウ次音アウニて喩母四等の
陽ハ原音レヤウ次音ヤウなり第二十二合轉喩母三等乃
遠ハ原音于ヱン次音ヱンニて四等の掾ハ原音ユヱン次音
エンなり是等を以て漢呉音の説を疑ハざれ

4N-1
:KN
Sh. 81
2

国立国語研究所
1001088176
2
1
176